

# 第38回戦国肥後国衆まつり



2月8日(日)、和水町多目的広場で、第38回戦国肥後国衆まつりが開催されました。

風が吹き荒れる寒い中で、開催となりましたが、多くの人々が訪れ、賑わいを見せていました。まつりは、三加和地区の3つの保育園(神尾保育園・あおば保育園・春富保育園)による出し物で始まり、園児のかわいらしい姿に会場した人々も大変見入っていました。

メインである「武者行列と国衆一揆の再現」では、鎧兜をまとった武者たちが入場すると、会場は緊迫した空気にと、会場は緊迫した空気にと、豊臣軍と和仁軍の壮絶な戦いが再現され、会場全体が惹き込まれていました。

他にも青年団による「肥後にわか」や商工会青年部による「戦国わらし飛ばし大会」、など多くの「ステージ」イベントが行われ、会場を沸かせていました。

最後は、お楽しみ抽選会と紅白餅投げで締めくくられ、終止盛り上がりを見せました。

武者行列と国衆一揆再現のひとこま

## 悲しき娘の物語 ～南蛮毛物語～

和水町上和仁地区には、「南蛮毛」という字名があり、450年ほど前に「南蛮娘」が住んでいたという伝承があります。

「南蛮マリア」は、豊後の国キリシタン大名、大友宗麟により和仁人鬼親宗と出会い、和仁田中城での生活を送りました。南蛮娘にとっては言葉こそ十分には通じませんでした、楽しい生活を送っていました。

しかし、高温多湿な気候と、生活習慣の違いにより、田中城に移って、一年たらずで病床につき、手厚い看護の甲斐なく、帰らぬ人となってしま



## 肥後国衆一揆 『田中城の戦い』

天正15年(1587年)豊臣秀吉の九州平定により肥後の領主となった佐々成政。成政が行った検地などの強引な政策に抵抗して肥後各地の国衆たちが起こした一揆が「肥後国衆一揆」です。

これに激怒した秀吉が、九州支配の今後の見せしめとして、筑前・筑後の大名に命じて攻撃をしかけ、肥後各地の国衆を滅ぼしていく中、和仁氏は辺春氏とともに、田中城に籠城して抗戦しました。和仁一族は、小早川秀包を総大将とする安国寺、立花、鍋島などの1万の大群に対し、1千あまりの軍勢で約2か月間を戦い抜きましたが、ついに落城。秀吉はこの一揆後、全国に『刀狩令』を発布したといわれています。

これが今もなお日本歴史上大きく位置づけられている『田中城の戦い』です。



ステージイベントや会場のひとこま